

沙石集「正直の徳」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

「正直の徳」を読んで、問いに答えなさい。

近き頃、帰朝の僧の説として、ある人語りしは、①唐土にいやしき夫婦あり。餅を売りにて世を渡りけり。夫の、道のほりにして餅を売りけるに、人の袋を落したりけるを見れば、銀の②軟挺六つありけり。家に持ちて帰りぬ。

妻、心素直に欲なき者にて、「我らは商うて過ぐれば、事も欠けず。この主、いかばかり嘆き求むらむ。いとほしきことなり。主を尋ねて返し給へ。」と言ひければ、「まことに。」とて、あまねく触れけるに、主といふ者出で来て、これを得て、あまりにうれしくて「三つをば奉らむ。」と言ひて、すでに分かつべかりけるとき、思ひ返して、煩ひを出ださむがために、「七つこそありしに、六つあるこそ不思議なれ。一つは隠されたるにや。」と言ふ。「さることなし。もとより六つこそありしか。」と論ずるほどに、果ては、国の守のもとにして、これをことわらしむ。

国の守、眼③賢しくして、「この主は不実の者なり。この男は正直の者。」と見ながら、なほ不審なりければ、かの妻を召して、別の所にて事の子細を尋ぬるに、夫が状に少しも④違はず。「この妻は極めたる正直の者。」と見て、かの主、不実のこと確かなりければ、国の守の判にいはく、「このこと、確かの証拠なければ判じがたし。ただし、共に正直の者と見えたり。夫妻また言葉変はらず、主の言葉も正直に聞こゆれば、七つあらむ軟挺を尋ねて取るべし。これは六つあれば、別の人のにこそ。」とて、六つながら夫妻に賜りけり。

⑤宋朝の人、いみじき成敗とぞ、あまねく褒めののしりける。心直ければ、おのづから天の与へて、宝を得たり。心曲がれば、⑥冥のとがめにて、宝を失ふ。このことわりは少しも違ふべからず。かへすがへすも心清く素直なるべきものなり。

問1 下線①～⑥語の読みを送り仮名も含めてひらがなで答えなさい。ただし、歴史的仮名遣いが使われている場合は、現代仮名遣いに直すこと。

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| ③ | ④ |
| ⑤ | ⑥ |



問2 「唐土にいやしき夫婦あり」を現代語に訳して書きなさい。

問3 「餅を売りて世を渡りけり」の主語としてふさわしい語を古文から抜き出して2字で答えなさい。

問4 「家に持ちて帰りぬ」の主語としてふさわしい語を古文から抜き出して答えなさい。

問5 「我らは商うて過ぐれば、事も欠けず」の意味としてもっとも正しいものを次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：私たちは商売をしているので、物がなくなると困る
- イ：私たちは物を売りすぎてしまうと、品物が足りなくなる
- ウ：私たちは商売をしているので、過ちをおかすことはできない
- エ：私たちは商売をしているので、生活には困らない

問6 「いとほしきことなり」の意味としてもっとも正しいものを次の中から選びなさい。

- ア：とても欲しいものだ
- イ：気の毒なことだ
- ウ：いとおいしいことだ
- エ：めったにないことだ

問7 「まことに。」とあるが、これは誰が何に対して言った言葉か。もっとも正しく説明しているものを次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：夫が、妻の「軟挺を落とした人に返すべき」という意見に同意している
- イ：妻が、夫が軟挺を落とした人に同情する言葉に同意している
- ウ：妻が、夫が軟挺を落とした人を探し出そうという考えに同意している
- エ：夫が、妻の軟挺を落とした人に同情する言葉に同意している

問8 「これを得て」とあるが、「これ」が指す語を古文から6字で抜き出して答えなさい。



問9 「三つをば奉らむ」とあるが、「銀の軟挺」という言葉を使って現代語に訳しなさい。

問10 「すでに分かつべかりけるとき」の意味としてもっとも正しいものを次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：すでに分かっていたので
- イ：すでに分けていたので
- ウ：もう少しで分けるときに
- エ：もう少しで分かりそうなので

問11 「さることなし。もとより六つこそありしか。」は誰が言った言葉か。古文の中から抜き出して答えなさい。

問12 「この主は不実の者なり。」とあるが、「この主」とは誰のことか。古文の言葉を使ってかんたんに説明しなさい。

問13 「夫が状に少しも違はず」の意味として最も正しいものを次の中から選びなさい。

- ア：妻が言うことが夫の言うことと少しも違わない
- イ：夫が国の守の命令に少しも従わない
- ウ：妻が夫に遠慮して少しも話さない
- エ：夫の言うことが国の守が考えたことと少しも違わない

問14 「いみじき成敗」の意味として最も正しいものを次の中から選びなさい。

- ア：厳しい判断
- イ：いじわるな判断
- ウ：すばらしい判断
- エ：難しい判断



問15 「ののしる」の意味として最も正しいものを次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：悪口を言う
- イ：評判になる
- ウ：文句を言う
- エ：誉める

問16 この説話による教訓が述べられている一文を抜き出して答えなさい。

問17 沙石集について最も正しく説明しているものを次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：鎌倉時代に成立した随筆である
- イ：中国の作り物語をまとめたものである
- ウ：鎌倉時代に成立した説話集である
- エ：平安時代に成立した日記である



問8 銀の軟挺六つ

問9 (例) 銀の軟挺を3つ差し上げましょう

問10 ウ

【解説】「すでに」は「もう・とっくに」という意味。「分かつ」は、「分ける・別々にする」という意味。つまり、六つの軟挺を分けようとしているのである。

問11 夫

【解説】軟挺を落とした人物は、お礼として半分を夫に渡そうとしたが、急に惜しくなり、「七つあったはずが六つしかない」と難癖をつけはじめたのである。それに対して、夫が「六つしかなかった」と反論しているのである。

問12 (例) 軟挺を落とした人

問13 ア

【解説】「夫が」とあるので、夫が〇〇したと考えてしまいそうだが、これは「夫の」という意味となる。つまり、夫の状（夫の言うこと）と少しも違わないという意味となる。妻が言っていることが、夫の言うこと少しも変わらないということとなる。

問14 ウ

【解説】「いみじき」は「並々でない・すばらしい」という意味を持つ。
 (参考：ひどい・恐ろしいという意味も持っている) 「成敗」には、「裁定・決裁」という意味があり、ここでは軟挺を落とした主と、夫の問題に対して「すばらしい判断」をしたという意味となる。

問15 イ

【解説】現代では「悪口をいう」というイメージの強い「ののしる」だが、古文では「評判になる・うわさする」という意味があるので注意しよう。



問 | 6 かへすがへすも心清く素直なるべきものなり。

【解説】この説話は、軟挺を惜しむあまり嘘をついた主ではなく、拾った軟挺をきちんと落とし主に返そうとしたり、嘘をつかず正直でいたことによって得をした夫婦の話である。よって、「正直でいるべきである」と述べる一文を抜き出そう。

問 | 7 ウ

ゆみねこの教科書

ゆみねこの教科書

ゆみねこの教科書

ゆみねこの教科書

